

令和4年3月29日 議会改革特別委員会 議事録
9時59分 開会

○出席委員 (9人)

委員長 網谷 芳孝

副委員長 西村 一啓

委員 藤川 和弘、原田 孝徳、小中真樹雄、小田上尚典、北地 範久、
日域 究

議長 賀屋 幸治

○欠席委員 なし

○網谷委員長 皆さん、おはようございます。

時間になりましたので、定足数に達しておりますので、ただいまより議会改革特別委員会を開会いたします。

それでは、日程第1に入らせていただきます。議会報告会資料作成についての今日は確認ということで、よろしくをお願いします。

まず最初に、私と副委員長が作成させていただきました議員の成り手不足と議員定数についての読み原稿をサイドボックスに載せると思っていますので、こちらのほうで何か、修正か何か変更でもございましたら、質疑していただければと思います。

小田上委員。

○小田上委員 資料作成、原稿ですね、ありがとうございました。

そうですね、前期の委員会での活動方針ではというところから、1枚目の中段ですね、2年間の全体の活動の話だと思うんですけど、それぞれが簡潔過ぎるのかなど。フェイスブック、YouTubeあたりは分かるんですけど、ちょっと資料作成、原田委員と一緒にさせてもらったときも話したんですが、自由討議の部分の説明だったりとか、あとは、委員会、決算特別委員会の意見を正式に議会提案というところ、この2つに関してはどういう内容のものなのかというところ、全部ですね、経緯と、もう少し説明があったほうが分かりやすいのかなとは思いました。

○網谷委員長 小中委員。

○小中委員 一番最後の段落がちょっと問題なんで、そうした状況を踏まえながら今年の9月までにはある程度の結論を出し、12月定例会に条例改正案として上程する予定としましてとありますが、これはこの議会改革特別委員会で可決されない以上、上程されないのであって、上程する予定としましてとすると、定数削減が前提になっているのかという、かつて異論が出ましたが、ある程度9月までに結論を出す過程において、それが可決されるか可決されないかによって、上程されるか上程されないかというのは全く異なるわけで、こここのところは書き直さないと駄目だと思います。

○網谷委員長 ほかに。

北地委員。

- 北地委員 細かいところではございますけども、読み原稿ですので、統一的にやるということで資料があるわけですよ。例えば、この中で資料を御覧くださいとか、そういった言葉は入らないのかなど。
- 網谷委員長 最初に出とると思いますが。最初に。
- 北地委員 最初に言つとるんですけども、この中で例えば、真ん中辺の活動方針がありますよね。その資料があつて、その資料2を御覧くださいとか。
- 網谷委員長 この中でね。
- 北地委員 そういったことも入れとったほうがいいんじゃないかなとは思いますが。親切過ぎますかね。
- 網谷委員長 ほかに。
日域委員。
- 日域委員 今の小中委員の話は、決まってないことが決まったかのように書いてあるということでしょう。だから、その議員定数の削減すればということでしょう、仮に。その文言をちょっと入れたら、そうなるだろうなということになりますから、それ加えたらどうですか。そういう言葉をね。
- 網谷委員長 原田委員。
- 原田委員 私は1枚目の、そして昨年9月にはというところの2行は、上に前期と後期に書いてあるので、もし先ほど小田上委員が言われたように、自由討議とか決算の意見のところの説明を少し増やすのであれば、ここはなくてもいいのかなと思うのと、2ページ目のそうした状況の中という3行ですね。アンケート方式と書いてあるんですけど、このアンケートを公表するわけではないと思うので、ここはなくてもいいんじゃないかなと思うんですが、あくまでも個人的な意見です。
以上です。
- 網谷委員長 ほかにございますか。
修正は以上ですので、最初からもう一回、小田上委員が言われたとおりに、皆さん案があるかと思ひますんで、そこんこと言っていたらやりやすいんですがねと思ひつて。どうですか。何かありますか。一応、考えておられると思うんで。小中委員も何か文章的に考えとるところがあれば言っていたら。
- 小中委員 だから要するに、可決されればということで、言わば、その12月定例会に上程されることになっていましてということであれば、可決されればというのを書けば、それでええんやないかと思ひます。
- 網谷委員長 文言をね。はい、分かりました。小田上委員、何かいい文言がありますか。
小田上委員。
- 小田上委員 すみません、細かいことになりまして、この場ですぐに正確にというのは難しいので、終わってから、内容と外れること、変なことにはならないと思ひますので、委員長、副委員長に相談させてください。
- 網谷委員長 後ほどね。
ということで、ほかにございますか。なければ。

小田上委員。

○小田上委員 すみません、大前提で申し訳ないんですけど、議会報告会の流れとして、まず報告、常任とか全体の報告事項があると思います。その後に、意見交換というところに入ってくるんだと思うんですが、これはいつやるものなんですかね。前提の報告事項という各常任とか委員会からの報告事項の中で取り扱うものなのか、意見交換のときの頭にこれをお伝えするのか、どっちなのかよく分からないので、もし意見交換の中で取り扱うのであれば、もう少し中身を充実させて、しっかり説明をした上で意見をいただくという方法、意見のいただき方もいろいろあると思うんですが、ということができるんじゃないかなど。もうそれは置いておいて、ただ意見、はい、くださいで意見交換をやって、何ですか、報告としてなので前段の部分でやるのか、ちょっと班長会議での取扱いになるのかなとも思うんですけど、ただ文章をつくっていく上で、そこが分かっていないとなかなか改革でも文章づくりづらいのかなとは思いました。

○網谷委員長 これから後、班長会議もあろうかと思うんですが、はっきりとしたことは、議長。

はい、議長。

○賀屋議長 議会報告会の中で、5委員会のほうからそれぞれその報告内容が集約をされて、どの程度の時間で整理ができるかということにもあるんですけども、少なくともメインテーマのこの意見交換に関連する一番大きなこの議会報告会の中での議会改革特別委員会での議論を踏まえた意見交換ということになるんで、今、小田上委員が言われたように、このことに特化して報告なり説明を十分していくということであれば、各5委員会の中での報告でなくて、この議会改革の報告を受けて意見交換を進めるという形のほうが時間も余裕があるのかなというふうに思うんで、できればそういうふうに取り扱いを、この後に班長、副班長会議がありますんで、そのほうでも図ってみたいというふうに思います。

○網谷委員長 よろしいですか。

○賀屋議長 いいですか。

○網谷委員長 はい。ということなんですけど、要するに、常任2つと特別が3つありますよね。その5委員会の中で各委員会でテーマが決まっておりますよね。議論というか報告するわけでございますので、議会改革特別委員会のこのテーマの位置づけが一応、意見交換へのメインテーマということで、これに専門的にその時間帯で議論といいますか、報告するということなんで、ほかの委員会と関連性が出てくるということは低いのではないかなというふうに感じております。

小田上委員。

○小田上委員 班長会議ですべき話になりそうなところを申し訳ないんですけど、ただ、班長会議で話せる内容と、この改革の中で話せる内容というのも違うので、意見交換の中で、もう改革のものとして説明をした後に意見交換を行うということですよ。報告は報告で前段でやっておくということであれば、改革としては、改革の一委員の意見としては、もう少し2年間やってきたこと、しっかり説明もしたいなと思ったりもします。せっかく用意いただいて、ほかの資料、使い方をもっと明確にしていって、班長会議で、改革も報告

なんだから中に組み込んでくれというふうになれば、話はまた変わってきますが、一応その方向でやっていくということになるのであれば、先ほど議長からもありましたし、ちょっとこれだと意見をいただくにはまだ不親切というか、不十分な原稿じゃないかなと思います。なので、もうちょっと細かいところを追加いただけたらなというふうに思います。

○網谷委員長 説明文の中でも少し詳しくという意味ですか。はい、分かりました。その辺のところは、小田上委員と後でしっかり協議しまして、文章つくっていただけたらと思います。原田委員。

○原田委員 今の小田上委員が言われたのに少し補足なんですけど、やはり2年間やってきた議会改革の中身の説明が少しこれだと少ないかなと。自由討議とかいうのは、ある程度資料だけだと不十分なので補足するべきところもあると思います。そこあたりをちょっと時間、取っていただきたいなど。

北地委員が言われたように、細かいところですけど、冒頭の資料のところ、資料御覧くださいじゃなくて、この前期2年間の資料を御覧くださいで始めて、それでこの説明をするというやり方のほうがいいんじゃないかなと。これだと資料御覧くださいだけなので、説明のときにこの資料の説明、今からしますという意味において、前期の委員会での活動方針の資料を御覧くださいみたいな形の最初に説明があって、それでももう少し詳しく、小田上委員が言われるように、説明されたほうがいいのではないかなというふうに思います。

○網谷委員長 どちらにしましても、文章全体的にこれ触るようでございますので、この読み原稿に関しましては、もう一度協議してまいりたいと思いますが、よろしいですか。北地委員。

○北地委員 すみません、ちょっと確認させてください。だから、報告事項で1回やっついて、メインテーマのほうでももう一回、何か読み原稿みたいにつくるということですかね。端的に言えば。

○網谷委員長 読み原稿はあくまでも挨拶原稿といいますか。

○北地委員 その辺の流れは、もうちょっと委員長のほうでまとめていただければ。

○網谷委員長 先ほど申しましたように、この議会改革特別委員会の一応メイン意見交換ということになっておりますので、その時間配分もございしますが、かなりの質問なり報告なり出てくると思うんですが、そういう意味でも、ある程度、その報告会の中では議員定数の問題が特化したテーマであろうかと思えます。今の段階でいろんな修正も出てまいりましたので、もう一度、この場でやりますか。この場でできればですが。

北地委員。

○北地委員 この後にまた班長会議もあるようなので、その中で流れを決めていただいて、読み原稿つくるのがいいかとは思いますが。

○網谷委員長 分かりました。

それでは、これ、読み原稿のほう一旦これで、詳しい作成方法はまた後ほどということによろしいですかね。よろしいですか。

[「はい」と呼ぶ者あり]

○網谷委員長 それでは、2番目の次の、小中委員の提出資料の活用で作成されました資料

がお手元にあるかと思いますが、この中で修正なり何か訂正があれば教えてください。
なければもう。

小中委員。

○小中委員 もう見ていただければ分かると思います。基本的なエレメントは網羅されてますので、最後に何か財政力指数というのを何か付け加えていただいたみたいなんですけど、結局これは大竹市議の報酬が高いその理由の一つにはなっているのかも分かりませんが、私のときにはなかった財政力指数が入ったというだけですが、大体普通説明しなくても、この注とか見て、これだけで十分分かると思いますので、特にもうこれ以上何か付け加えるということはないと思います。

○網谷委員長 ありがとうございます。

それでは、このままの資料で。

ありますか、小田上委員。

○小田上委員 資料作成ありがとうございました。内容でどうこうということじゃないんですけど、この並び順ですよ。並び順って何か意味があったりするのかなとふと思って。広島県で比べてみたいとかというときに、もちろんエクセルじゃないんで並び替えができないですし、どういう基準で並んでるよというのが、もしあれば教えてください。

○網谷委員長 藤川委員。

○藤川委員 すみません、この並べ替え、私がしました。大竹市が一番先頭にさせていただいたのと、最初は山口県、岡山県、県で区切りをしてたんですけども、人口で分けとったほうがいいんじゃないかと。人口が少ないのから多いのに並べ替えをして、表しました。

○網谷委員長 小中委員。

○小中委員 さらに付け加えて、この中で既に柳井市議会と江田島市議会はもう選挙行われていまして、定数を変更したときの定数になっているということ、それはちょっと説明していただければとは思いますが。

○網谷委員長 これ、資料の中にこの矢印が出ると分ですよ。

○小中委員 そうそう。

○網谷委員長 今度、報告会の中で。

○小中委員 そうそう。

○網谷委員長 そういう意味ですね。どなたがどの説明になるか分かりませんが、この委員会の中では一応御承知をお願いします。ということでよろしいですかね。

[「はい」と呼ぶ者あり]

○網谷委員長 ほかに。

北地委員。

○北地委員 この資料の説明というのはいつ頃するのかなというのが、一つ疑問なんですけど。

○網谷委員長 これもこの後の班長会議の中で出てくるかと思いますが、議長、大体分かりますか。

議長。

○賀屋議長 先ほどの質問と関連するんですけども、要するに、議会改革特別委員会からの報告というものをこの一番最後に一応持ってきとるんで、その報告という部分を意見交換に合わせて、意見交換のための報告という形で皆さんにしっかり情報提供するという。その中で、今の資料も説明をしていくということで、先ほどの読み原稿の中にもこの資料の個別の説明ももう少し入れれば、しっかり理解をしていただいた中で意見がいただけるのかなというふうに思いますんで、その辺をちょっと、読み原稿のもう一回修正を皆さんで諮ってもらえればと思います。

○網谷委員長 よろしいですか。

ほかにございますか。

小田上委員。

○小田上委員 すみません、この資料ということじゃないんですけど、この資料もほかの資料もなんですけど、使い方がよく分からないというのは冒頭に言って、そこらは読み原稿で加筆していただけるということなんですけども、意見交換、定数について、議員の成り手不足についてから定数についてという流れで意見交換をするとなっているんですが、改革に取り組んでいる内容ですよね。この委員会が取り組んでいる内容が意見交換になって、その意見交換の中の進め方とか、市民の方にこういうことを聞きたいとかというのは、ある意味、改革がやるのかなと思ったりもするんですけど、その意見交換の中身、やり方については班長会議の判断を仰ぐのか、改革として進んでいくのかというのが、いまいちびんときてないので、ここでこうして、こういう意見を市民の方から聞きたいんですけどとかいうものが出づらいのかなと思ったりとかいろいろするんですけど。意見交換の中身をつくっていくのはうちの委員会なんですか。それとも、班長会議のほうなんですか。

○網谷委員長 ありがとうございます。

中身はもちろんそれぞれの委員会ですから、議会改革と思います。答弁も議会改革の委員がやってくれるものと私はそういうふうに解釈しとるんですが。ではないですかね。と思います。これ、班長会議でも、班長会議というよりか、班の中でこれから決めることだろうと思うんですが、この委員会はこの方が一応メインで、挨拶はもちろん答弁ももちろんというような形になるかとは思いますが、答弁の場合はその5人の方、その班の方が、詳しい方がそれはいいので、一応説明する読み原稿があれば、冒頭は班の中で決めていただく分ではないかと、私はそういうふうに解釈しとるんですが、それでよろしいですか。

議長。

○賀屋議長 メインテーマでこのことについて意見を述べたいという市民が恐らく目的を持って来られるということなんで、議員定数のことについてのそれぞれの意見を持って質問されると思うんですよ。それを聞いてどう判断するか。すぐに答えられんこともいっぱい聞かれると思うんで、それについては、意見として持ち帰りますということでええと思うんです。少なくとも、この委員会の中で議論されて、結論出てませんけども、こういう話もありましたよということについて、情報としてこういう話も確かにありましたと、でも、結論はまだ出ていませんという返事ということの中で、その全ての質問と意見に対して、

その答えをして帰らないといけないということでもないんで、意見をもらうということなんで、むしろ。そのことに今、努めてもらいたいと思います。ですから、どういうまだ意見とか要望が出るか分からない状況なんで、それを踏まえてこれを進めるということなんで、そのことでよろしくお願ひしたいと思います。

○網谷委員長 ありがとうございます。

小田上委員。

○小田上委員 すみません、資料のところからちょっと外れてしまって申し訳ないんですけど、であれば、今から意見交換の中での流れですよ。それぞれの班に改革のメンバーがいるとはいえ、原稿なり提示してどのように進めていくかというところも決めないといけません。ただ、班長会議でそれが、改革がやっていいよというふうにならないと動けないのか、ちょっとそこら辺はよく分かってない、整理ができてないんですけど、例えば、班長会議で提示されているものでアンケートがありますよね。じゃ改革としては市民の方からいろんな意見が聞きたいということで、そのアンケートについてもこういうアンケートを取ってほしいとかということが言えるのかどうかですよ。あとは、むしろその意見交換の中でもう意見をたくさんもらうから、その定数、成り手不足については、この報告会を開催したことについてのアンケートとして必要ないとかですね。そういうところも細かく、うちの委員会が決めていかないといけないのかなと思ったりはしたんですけど、そのあたりはどうなんですか。

○網谷委員長 ありがとうございます。

いや、細かくも大きくも、この議会改革が決めなければならないと私は思います。このテーマについてはね。細かくというのが、要するに、市民の方の質問を想定しながらという意味ですか。まだ議会改革がどういう、報告会がどういうスタイルになるか、これやってみないと分かりませんのでね。意見のほうもどういう意見が来るかも分かりませんので、ある程度は想定しなければなりません、その辺のところ、これからまたこれを済んだ時点で、報告書をみんな出していただくようなろうかと思うんで、これもまたかなり時間がかかろうかと思しますので、その辺のことも含めて、支度ができる範囲で支度ができればいいのではないかとこのように私は解釈しているんですが。

小田上委員。

○小田上委員 すみません、何度も。その支度ができる範囲でと委員長がおっしゃったとおりで、なので、この委員会の中で市民の方からどういう意見をもらいたいのか。例えば、前半2年間やってきた、議員の成り手不足なので議員の仕事を理解してもらい、やりたいと思ってもらう、どうだったら議員になりたいと思いますかということ聞いてみたいとか、端的に、定数減らしたほうがいいのかと思いますか、そのままがいいと思いますか、増やしたほうがいいのかを聞くとかという。いろんな意見がある中でも、どの部分を聞きに行くのかというのはこの改革の中で決めておかないと、会場によってまちまちで、もらえる意見の濃淡がすごいのかなと思ったりしました。

○網谷委員長 要するに、質問の、仕方という意味のことでよろしいですか。

小中委員。

○小中委員 明らかに定数削減がメインになるのは言うまでもなくて、議員の成り手不足、これはもう無投票になった原因かもしれませんが、結局、定数問題について市民がどのように考えている、それがメインになるのは誰が考えても当たり前の話ね。だから、こちら成り手不足がどうのこうのというの、それをメインに持ってきたって、要するに、無投票を回避するためにはどうしたらいいかということに対して、市民がどういうふうに考えているかということを知るのが、私はメインだと思いますよ。だから2年間やってきたことはやってきたことでいいけれども、今、何が問題かということが分かってたら、何を聞くかというの決まっていると私は思いますけど。

○網谷委員長 ありがとうございます。

要するに、質問事項にあらうかと思うて、これ先ほどアンケートと言われたんですがね。一応、班長会議でのアンケートはもう大体決まっておりますよね。成り手不足と議員の定数についてと。削減すべき、どちらとも言えない、これ一応アンケート方式になつてくるんですが、質問事項ということになりますと、副委員長と案を出してくれてみたんですがね、議員の成り手不足、それから無投票の結果について、それから議員の定数問題、これ一応3点の大きなテーマではございます。これは私自身の想像ではございますが、今、小中委員の言葉にも近いようではございますが、恐らく議員定数の問題が大きくなるんじゃないかというふうに私も想像しております。成り手不足と無投票についての因果関係だったと思うんですが、そんなこともなかなか議論とすれば大変難しい議論になるんじゃないかというのは本当に思っております。それで、無投票の結果についても、いろいろ極論ではございますが、議員には責任がないような意見もございましてね。そのところは、自然と報告会の中で市民の方から出てくるんじゃないかと、私自身想像しておるんですが、それを一々文章にしてお伺いしますというふうに、こちらから問いかけるというような方法を取るのか、皆さんに協議していただければと思います。文章にして出すのかということも含めて、どうなんのかなというふうに私は今思っているところでございます。

小田上委員。

○小田上委員 ごめんなさい、文章に出して一々アンケート配ってという方法も意見の聞き方としてはあると思います。それがいいのかどうかは別としてですね。

あと、定数削減の話になるのが当たり前だと言われましたけど、今、その話をしますよということは言うんですが、当たり前で定数削減どうですかと聞きに行くわけじゃないですよ、僕ら。どう思ってますかを聞きに行くんですよ。この話になつてのって無投票だったからですよ。なので、定数削減どうですかと聞きに行くぐらいだったら、議員が聞きにいった、ここで採決したらいいじゃないですかという話をいつもしているじゃないですか。なので、こうだからこうなんですよという理由をつくりましょうね、理由を見つけましょうね、そのための改革ですよと僕ずっと言ってるじゃないですか。なので、何を聞きに行くのかはすごく重要だと思います。何を聞きに行く意見交換の場にしましょうねという意思統一を行っておくのが重要だと思いますよという話をただで、なので、何で無投票になったかと、無投票をどう回避するかという話なんだろうとは思って、そ

ここに重点を置いてどう思いますかと聞けば、定数減らせばいいと思うとか、さっき報酬とかありましたけど、報酬の話だったりとかいろいろ出てくるとは思うんで、どうやったら無投票回避できると思いますかという聞き方をして、定数の話いただくのももちろん真摯に受け止めないといけないので、そこはありかなとは思いますが。定数どうですかという、減らせばいい、そのままでもいいだけに終始すると思うので、もうちょっと、せっかく小中委員と藤川委員につくってもらった資料があるので、こういうのを見ながら意見もらえるようになればいいなと思って聞いただけです。

○網谷委員長 小中委員。

○小中委員 私は別に定数削減がどうのこうのということ言ってるわけではなくて、要するに、これはこの議会報告会でこれがメインテーマになったのは、9月の個々の議員がその結論を出す一つのヒントとして行われているわけであって、それを言っただけで、私は定数削減がどうのこうのということではなくて、定数問題について市民がどういうふうに考えているかを知るのがメインテーマだと主張をしたに過ぎません。

○網谷委員長 ありがとうございます。

要するに、議会改革特別委員会としての題目として、議員の成り手不足と議員定数についてという、これ一番最初のテーマの題目を書いとるんで、これはもう説明せんでも、市民の方もこのための報告じゃのと、これから我々も意見を言ってもいいんだなというような心構えで来てくれているものと、私は想定してるんでね。まずは、今までの改革委員会の中のこの2年間、2年と半年ですか、報告をして、これについての意見が出てくると思います。各会場でね。それに対して、議員側とすれば想定はできませんので、心構えだけはしておく必要があるんじゃないかということ私は申したわけでごさいますね。先ほど申しましたように、議員の成り手不足、また議員定数にも関連してくると思います。それから報酬も、議員としてのインフラですか、社会保険とか年金とかいろんな問題も、議員側としたら出てくるのではないかなというふうに私は感じております。もう成り手不足というこの文言だけでも、これ全国的な問題ではごさいますので、今、議員という国会議員以外の地方議員が大変厳しい環境に置かれてますのは確かでごさいますので、いろんな問題が出てくるとは思いますが、それを想定しながら、皆さんも心構えをしてほしいということでごさいます。

以上でごさいます、何か。

原田委員。

○原田委員 メインテーマがその議員定数のと成り手不足ということですので、そのためにこの資料があるわけですよ。資料があつて、会場に来られている方々がいろいろと、もちろん考えてこられる方もいらっしゃるし、来て意見を、その資料読んだりとか読み原稿聞いて意見を言われたらいいという方いらっしゃると思うんですけど、ここがメインですので、そうすると、市民の方が判断するのはこの読み原稿読む限りその資料しかないのかなという気がするんですよ。この改革の中でずっと議論してきたこと、確かに結論は出ていないかも分かりませんが、改革の中でどういう議論がされたのかということはこの読み原稿の中に入れておかないと、会場に急に来られてばつと何か質問したいなと思ったときに、

どういう議論をされていたのかというのがよく分からないんじゃないかなと思うので、どういう議論がされたのかということのを少しかいつまんで説明してあげたほうが親切なのかなというふうに、読み原稿のところに戻って申し訳ないんですけど、そのあたりも入れると、このテーマがテーマですから、それを参考に意見も出るんじゃないかなというふうに思います。

以上です。

○網谷委員長 ありがとうございます。

今、原田委員が言われたようには、これまでのいろんな皆さんの意見も少しは触れてみてもどうかということですが、それも確かにそうなんですけど、それを全部箇条書きにしろ触れて入れるということになると、膨大な資料も要りますし、読み原稿もこんなもじゃ足らんとします。この議員の成り手不足、議員定数についてのこの意見交換の中で、消化できるのかということも踏まえることも必要ではないかということもありますので、時間をこれだけに限って報告会をするのは別ですが、全体の中の、何ぼメインテーマとはいえ、時間の制限もないのなら別ですが、ある程度の制限をされておりますので、それのところちょっと考慮しまして、皆さん、どう思われますか。意見あれば。今までのこと聞かれたら、全部入れなければならないというふうに、ような。

小田上委員。

○小田上委員 僕が言ってるのは、全部来る質問とか意見を想定して準備をしましょうじゃなくて、細かいところはそれぞれこの改革に属している委員がその場で説明すればいいと思うんですね。ただ、何をしに来たんだというところをしっかりと明確にしておくのと、こういう議論をしてますというところを、しっかりと明確に委員が言えるようになっておくという作業ですね。そこをしとかなないと、会場によってまちまちになる、答え方が違うとかいうことになるんじゃないかなと思うので、どういう意見を今日は聞きに来ましたというものが、もうちょっと提示できるものが、こちらからクエスチョンとしてどう思いますかというものを何個か用意しておく。今、原田委員が言われた、どういう議論をしてきたよというところは、読み原稿にはしないまでも委員の中で共有できるような箇条書き、こういう議論をしてきたよねというものは持っておくとか、そういう共有を委員内でできていれば、読み原稿にこだわる必要はないのかなと思います。

○網谷委員長 ありがとうございます。

共通認識という問題ですよ。皆さん毎回、委員会に出とられますので、ある程度の答弁はできるものと私は想定して、今、言ってるもんでね。これを一々箇条書きにしろ、こういった場合はこういうふうな答弁をするというようなことでよろしいのかどうか。委員の皆さんも、それぞれ皆さん違う意見もございますので、それのところはどうですかねと思って。

日域委員。

○日域委員 あれですよ。大竹市議会として3か所で同時にやるということですから、あんまり差がないほうがいいなとは思いますが、差がないというのは無理ですから、来る人も違うし、答える人間も違うし、それは飛んでくるボールが違えば返すボールも変わって

きますよね。だから、ある程度そろえなくちゃいけないよねというのは要ると思いますけども、あとはある意味、出たところ勝負というか、それはそこの流れによっていかに受け答えをするかであって、それはそれでいいんじゃないかと思えますけどね。後から、うちはどうじゃったとか、いやわしらこうじゃったとか違いがあって、それ話をすれば、またそれはそれでいい、面白いというふうに思ってますけども、ただ、あまり準備しなくてもいいと言うと無責任な言い方にも聞こえますけども、それなりでいいんじゃないかなと私は考えてます。

○網谷委員長 ありがとうございます。

いろいろな意見が出るところではございますが、先ほど申しましたように、毎回皆さん同じように委員会に出てきていただいとるんで、根本の考え方はそれぞれ違うかと思えますが、答弁に答える言葉、認識的には基本的には私は同じだと思います。それで、議員定数に関しては若干の誤差もございますが、それはそれなりの議員の方の裁量でございますので、日域委員が言われたように、委員の皆さんが答弁をするという、これくらいしかできないんじゃないかなと、これは答えを一つに統一しておこうということが果たしてどうなのかと思うんですが。意見としてどうでしょうか。

日域委員。

○日域委員 例えば、私がこのそこに参加する、この議員定数とか無投票とかそれに関心を持って一市民とだったとしますよね。そうしたら、そこにずらっと並んでいる議員に対して、一人一人言えって、個人的見解言うてみて言いますよ。それがなかったら、何の面白さもないですからね。だから、いろんなことがあるんですよ。それはそれでいいやないかと考えておかないといけないかなと思います。

○網谷委員長 ありがとうございます。

そういうことは、必ずとは言えませんが、あります。私も経験しました。おまえ何考えとるんじゃ、言うてみということ言われたことはあります。確かに。私は自分の持論を堂々と答えさせていただきましたがね。それはほかの議員とは違う意見もあろうかと思えますが、それはそれで私はいいんじゃないかと思っております。

日域委員が今、いい例を出されたんで、これを統一して見解をまとめとくというのちょっとおかしげな感じにはなるかと思いますが、いかがでしょうか。統一して答弁をまとめておくというのも一つの楽な作業ではございます。ただ、それを統一的な答弁を決めるというのが、またこれ大変な作業になるんじゃないかというふうに私は思いますが。

小中委員。

○小中委員 金子みすゞの詩に、「みんな違ってみんないい」というのがありますけど、要するに、一つにまとめようというのは、やっぱり私は無理があると思いますので、そこで市民からいろいろ言われて、どういうふうに答えられるかというのは個人個人というか、議員の器量というか力量にかかってくるわけで、全部予定稿で答弁の基礎をつくっておけるのはもうちょっと無理な話だと。だからそこで、どういうふうにちゃんと対応できるかどうか、それは逆に言うたら、市民もこいつほんま大丈夫なんかって見ると私は思います。ですから、そんなみんな画一的に、それはちょっと違うんじゃないかと私は思いま

す。

○網谷委員長 ありがとうございます。

日域委員。

○日域委員 だから、そろえておくべきことはそろえておくんですよ。何をしてきましたかといったときに、わしあれした、わししちょろんとか言うたらおかしいですから、そろべきものはちゃんとそろえとかなくちゃいけないし、本来違って当たり前のものは違ってもいいよねということですからね。誤解のないように。

○網谷委員長 答弁の場合は大変難しいんですよ、これね。一人ずつ見解が違いますんでね。それで、市民が審判するんですからね。4年ごとの審判は。

それはそれとしまして、今のそのためにこの資料をこうして用意するわけでございますんでね。どうでしょうか。いろいろ意見が出てちょっとまとまりが難しいんですが。

北地委員。

○北地委員 ですから、確認なんですけども、一応、個人的見解というのは統一は無理なんです。それなら、その場その場でやらんとしようがないと思いますけども、今までこの議会の中でしてきたこと、流れとかそういう議論をしたこととか、これは統一しとかんと、こっちの会場ではこんな話はしてません、議論をしてません、こっちはしましたとか、そういうばらけた話になっちゃまずいなと。今まで議論したことについては、統一したものをつくつとかにやいけんと。

個人的見解、統一するの無理ですから、それならその場でやらんとしようがないというように思いますけども、そういう形の中で統一見解はつくつとかにやいけんとというのは、日域さんもさっき言われたように、そのとおりだと思います。だから、そういった資料は想定問答みたいなものはつくつとかんといけんとは思います。

それと、前回までの話では、市民の皆様は今の状況についてどのように思っているかを漠然と聞くような形でいったらどうかということの中で、今回の資料をいろいろつくってみようという話になったと思います。だから、聞き方としては、今の状況、市民の皆様はどう思われますか、無投票になりましたというか、こういったことについて皆さんどう思われますかと漠然と聞くのがいいんじゃないかというふうには思うんですけども、その中で一つ疑問があるのは、この後、班長会議あるんですが、そのレジュメの中にアンケート取るようになってるんですが、そういったことはやっぱりこの中で要るのかどうかというのは、前回の話の中では、アンケート取ればどっちでも削減の意見しか出んよと、数字しか出んのじゃないかということで、アンケートはあまり取らんほうがいいんじゃないかというような話も出たと思うんですよ。何で今回、班長会議のアンケートが出るとんかなと疑問なんですけども、その辺はまた班長会議の中で話してもらえればいいと思うんですけども。資料についてはやっぱりそういうふうには個人的見解はそれはそれで対応すればいいけども、今までの議論してきたこととか、そういった内容について統一見解は持つとかないけんのやろうかと、そういう取りまとめでいいんじゃないかとは思うんですけど、いかがでしょうか。

○網谷委員長 ありがとうございます。

ちょっと今までの議論の中でということ、一応、私なりに今までの、今日で10回目になるんですかね、委員会が。その中で、皆さんの発言の要約というふうに毎回掲げてはおるんですが、その要約の中でいろんな意見が出るとのは確かでございます。それをどういうふうに、どの範囲で、まとめるかということになろうかと思っておりますが、なかなかこの幅が広いので大変な発言されとる方、皆さんされておりますので、まとめるというの大変難しいんですがね。

日域委員。

○日域委員 ちょっと実は私が過去の経緯を調べてくる、役だったみたいで、一応調べたものがありますが、調べきれてないところがあるんですけども、今、今回どうするかと議論してますけども、それを中断しろとは言いませんが、やっぱり過去を調べてみるのも参考にはなると思うんで、お配りする文章ないんですけども、これまだ中途ですけども、ちょっと紹介させてもらえますか。

大竹市は昭和29年に市ができました。そのときに市長選挙があつて、1年後に議会の選挙をやっているから、今でも市長選挙と議会選挙、1年違いますよね。定数削減したのが6回あります。1回目が昭和50年、これはもう明確にオイルショックですね。絶対にオイルショックの経済激変に対応したものだと思います。ここで30人が26人になってます。それで平成6年と平成10年にされてますけども、これはどちらかという自治会連合会の陳情か何かそんなもんが出てきたんですよ。だからこれはそうだと思います。もちろん、平成6年はそうでもないけど、平成10年は大竹市が公債費率日本一と新聞に書かれたんですよ。大竹市が日本一財政が悪い町だって中国新聞書きました。そういう時期ですから、それも根底にあったかもしれませんが、平成6年と平成10年は自治会連合会、次は平成15年と平成19年、これは明らかに大願寺の宅地造成、売れなかったですから、あれでもう危機的な財政でしたよね。だからそれに絡めて、この2回はあるんだと思います。

それで問題は、一番私が引っかかっているのが昭和58年なんです。これは6月議会ですよ、定数削減したのは。6月議会で削減して、それで次の月にもう選挙ですから。あり得ないですよ、常識的に考えたら。それでそこに書いてある発言の中にキーワードがあつて、それをこの週末に事務局へメールで送ったんですけども、回答が不十分だったんで、今朝、選挙管理委員会にも聞きました。そうしたら、ある議員が今朝聞いたんでは亡くなっているというんです。現職で亡くなったら、この前、山本さんのことありましたけど、4例目でしたよね。これ、5例目になりますから、そんなことはないだろうと。もう一回、後で選挙管理委員会行ってみようと思っておりますけども、これ大竹市にとっては、大きな事件があつたんですよ。私、記憶しています。だから、それに絡めて、何か報復人事じゃないけども、何かその事件に絡めて、あがなやつが議員やっていけるかいやって、じゃ減せやと言うて、強引に減したんじゃないかと私は思えるんです。それを公表するかどうかさておいて、物事やる以上、そのバックにあることは一緒、把握してないと何か言われたときに知りませんと言ったら無責任ですからね。

それで今、これ調べた上で、今の経緯をちょっとまとめて、皆さんにまた、できたら今日中にでも事務局にはメールで送りたいと思っています。やっぱりそれぞれ、今回みたい

な無投票もちろんないですけども、それぞれそれなりの、オイルショックは国家的な経済危機ですけども、終わりの頃は、大竹市独特の、あのとき大変でしたから、通じるものがあったんだらうなと思います。

以上です。

○網谷委員長 ありがとうございます。

今、日域委員が発表されていたのは、この次の段階になろうかと思いますが、昭和29年からの大竹市の市政の流れを言っていたんですがね。これまで正式な資料はまだできていないということですよね。それが近々できるということですので、これまず3番目の資料作成の中でということ。

○日域委員 例えば、市政のあらましを見るじゃないですか。あれ見たら、まず一番はあの中にいっぱい間違いがあるんですよ。それから始まるんですからね。市政のあらましをつくったのは議会ですから。だからそこなんですよね。面白いもので、見てみたらいろんなこと出てきます。

以上です。

○網谷委員長 ありがとうございます。

せっかく詳細に調べていただいておりますので、こういうのを全部報告会の中で披露するかということですが、もう分かった以上は、ある程度の箇条書きでもよろしいので披露したらどうかという、最初のこれ意見ではございましたので、披露していただいたら私は思いますが、皆さん、どうでしょうか。今、3番目の資料の中で今、聞いとりますんで、あっちこっち飛んで申し訳ないですが。これはこれで、経緯はせっかく調べていただいとるんで、その辺のところは日域委員よろしくお願いします。皆さんではないですよ。報告会の中でもね。そがね小さく語らんでも、箇条書き程度ぐらいには語っていただくこともあり得るんじゃないかと私は思います。ありがとうございます。

ということで、今の3番目の北地委員と日域委員のこの資料作成については、そのぐらいにさせていただきます。

小中委員の資料の今、途中でございましたよね。あちらこちら飛んで申し訳ありませんが。資料そのものはよろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○網谷委員長 資料そのものはよろしいということで、今までの2年半の皆さんの意見を最初の読み原稿の中に入れてはどうかという意味でしたかね。

原田委員。

○原田委員 読み原稿ではなくてもよくて、小田上委員が言われたように、皆さんが共有しておけば、情報としてですね、いいので。皆さんが意見を言われる参考の材料として。あともう一つ、統一的なお答えをしなくちゃいけないと。個人の見解は自由ですけど、議会改革の中の議論については、皆さん統一的な回答しなければならないという意味で、読み原稿でなくても資料として共有できるものがあれば。

○網谷委員長 ありがとうございます。

要するに、これもじゃけえ、今、原田委員が言われたような箇条書き程度で、いろんな

皆さんの意見が、こういう意見もございませうという程度の意見で、それを文章にしておくという。

(発言する者あり)

○網谷委員長 ちょっと逃げるわけではないんですが、説明される方が一番詳しいのと思えますんで、それ原田委員か小田上委員、どちらかできますか。皆さんの意見をまとめていただいて、一つの資料として。

小田上委員。

○小田上委員 僕が議会報告会で定数について何の話をしましたかと言われたら、すみません、まだ何も決まってないですとしか言えません。なので、ほかの委員さんがどういうことを言われるか分かりませんが、あなたはどんな話をしてきましたかと言われたら、僕は何も進めてない、進んでない、ゼロベースで始めて、真剣に考えようと思っているのに、話が前に進んでいないんです、どうしたらいいですかねとしか言えない。なので、その認識を皆さんと話し合っ、確かにそれは話した、そうか、これは話したのかというところに持っていきかけた僕のがままたもしれないですけど、それがないと、僕は議会報告会で何をやってきましたかと言われたら、そう答えるしかないです、今。

○網谷委員長 ありがとうございます。

そういうふうには答えられても我々としても困りますんで、そのためには、御足労ではございますが、今の原田委員と言われたような文章なりを作っただけですかね。どうでしょう。

○網谷委員長 できませんか。

○小田上委員 できません。

○網谷委員長 できませんと言われると、ちょっと苦しいですが。どうでしょうか、皆さん。小中委員。

○小中委員 別に、だから匿名で議員アンケートやりましたと。現状維持派と反対派のほうで定数削減派より現時点では多かったみたいですが、これは事実なわけだから、事実として別に言っても構わんと思いますよ。意見と事実は全く違うんやから。要するに、定数削減したいのか、したくないのかというのも当然あるわけだから。ただ、現時点においては、現状維持派、もしくは無投票のどこが悪いんやというそういう意見もあるわけですからね。少なくともアンケートを無記名というか、私は本来その意見を言うなり、人を批判するときには絶対に匿名ですべきではなくて実名ですべきだと思いますが、そのアンケートの結果というのは、別に市民に公表しても私は全く差し支えないと思いますが。

○網谷委員長 ありがとうございます。

先ほどの今の2年半の経緯ですか、皆さんの意見を、先ほど小田上委員はできませんと言われたんですが、原田委員、どうですかね。

原田委員。

○原田委員 今の小中委員が言われたとおり、議論のしていることもあるので、個人の意見として結論がまだまだ出るような内容の議論になっていないのかも分かりませんが、数字が出たりとか、これアンケート取られてそれぞれの意見が出る。そこを細かく言う必

要はないと思うんですけど、今、小中委員おっしゃったように、少なくとも減さなければならぬ人が何人、現状維持が何人、まだ考えてますという方が何人というところは、もう数字が出てるわけですから、そういうものはまとめておくべきなのかなと思いますので、じゃそこは私のほうで考えてみますが、それを皆さんが共有できる材料として使うかどうかは別の問題としてですね。

○網谷委員長 もちろんやっていただければ、それはもう一回でも委員会開いて確認したいと思いますので。やっていただけますか。すみません、ほいじゃ、今の小中委員の言われたアンケートの結果もそれでもいいんじゃないかということで、一つの資料としてつくっていただければと。よろしくお願いします。

○原田委員 その全体としてこの読み原稿の中に、このアンケートをしましたというの、このままを入れるのであれば必要かなと思うんですけど、もしこれを入れるのであれば、それこそ皆さんの判断材料として、今、定数すべきだと。現状維持でいいという人数はアンケートで出ているわけですから、その程度を読み原稿に入れ込むだけでもいいのかなと思いますし、そのあたりちょっと読み原稿に入れるのか、皆さんの共有資料として手元に持っておくべきものなのかということは、この場では判断ができないので、自分で何にまとめてみて提案させていただきたいので、ここで言及は避けさせてください。

○網谷委員長 その辺のところは判断にお任せします。よろしくお願いします。

ということで、もう1枚といいますか、資料が増えたということで認識していただければと思います。よろしくお願いします。

それでは、この件につきましては、これくらいでよろしいですか。

[「はい」と呼ぶ者あり]

○網谷委員長 それで、では1、2、3番目は先ほど日域委員が発表されましたので、4番目の前委員会による実行、施行されています4項目の検証の中で、小田上委員と原田委員が作成されました資料の中の訂正か何かありましたら。これでよければ、これでよしということで。

小田上委員。

○小田上委員 主につくった本人が言うのもあれですけど、これ検証という意味合いはかなり薄いです。紹介をさせていただいて、議員定数の話が主になろうかとは思いますが、こういう取組で、意見ですよ。この取組に関しても意見をいただいたり、できれば検証につながるのじゃないかなという思いでつくっています。なので、検証という意味合いは、この資料にはちょっと少ないですが、紹介という程度で理解いただければと思います。

○網谷委員長 分かりました。

これにつきましても、いろいろな質問があろうかと思いますが、それに都度、答えていただければと思いますので、これはこれでよろしいでしょうか。

[「はい」と呼ぶ者あり]

○網谷委員長 それでは、資料についてはこれでよろしいということで。

また、一応確認しますと、読み原稿については、また後ほどでも訂正なりしていただければと。

日域委員。

○日域委員 さっきのこの、何というか、小田上さんがつくられたやつ、これ、この絵があるじゃないですか。小さなことですが、一番右の下に令和3年度決算特別委員会で施行と書いてありますよね。決算特別委員会って分かりにくいんで、括弧書きで何年何月とあったほうがいいかなど。これ、令和3年の決算というのはこの前のことでしょう。

○網谷委員長 これは令和2年度ですよ。

○日域委員 だから、何年度とやると実際にやった年月があるじゃないですか。それ非常に分かりづらいところがあるんですけども、両方が分かるようにちょっと書き加えてください。

○網谷委員長 小田上委員。

○小田上委員 すみません、指摘ありがとうございます。令和2年度決算特別委員会で令和3年に開催されているというふうに、ちょっと表記、改めます。ありがとうございます。

○網谷委員長 これ日にちも入れときます、日にちを。はい、分かりました。お願いします。あれぐらいで、よろしいですかね。この今の資料の件につきましては。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○網谷委員長 それでは、一応1番目につきましては後ほどまた協議したいと思いますので、読み原稿につきましては。それで、2番目の小中委員の資料の活用につきましても、これに皆さんの意見を増やすということで、意見の要約を増やすということで、これも1個カバーができるんじゃないかということでございます。それで、北地委員、日域委員の昭和29年発足当時からの資料は、これからもう少し精査して作成するというので、よろしくお願いします。それから、4番目の小田上委員、原田委員の実行、施行ということで、前委員会からの流れを検証するというので、こちらの資料のほうもこれでよろしいということで、ちょっと訂正ございました。よろしくお願いします。

それでは、以上、日程第1はこれぐらいでよろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○網谷委員長 日程第2のそのほかでございますが、何かございましたら。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○網谷委員長 ないようですね。ないようでしたら、次回の日程を、日にちを決めたいと思いますが、今回のいろんな追加の資料も必要になってきましたんで。

(発言する者あり)

○網谷委員長 今、資料の追加もいろいろございましたので、それから読み原稿の修正もございまして、1週間ぐらい後の11日からの週で、議長のスケジュールございますか。来週すぐ入りますか。来週のスケジュールで、4日からの週で何かございますか。

局長。

○三上議会事務局長 7日、8日かぐらいで。

○網谷委員長 ないんじゃろ、スケジュール。

今、議長が7日、8日ぐらいでよろしいか。

小田上委員。

○小田上委員 入学式なので、変えていただきたいんです。

○網谷委員長 はいじゃ8日か。8日はどうですか。8日でよろしかったら。

(発言する者あり)

○網谷委員長 それでは、4月8日の金曜日10時から、よろしくお願ひします。

それでは、以上で議会改革特別委員会を閉会といたします。お疲れさまでした。

11時15分 閉会